

新春マラソンに2500人  
**中心市街地を快走**



「一般・高校の部」のスタート

「城下町おおがき新春マラソン2012」が1月3日、中心市街地で開かれ、約2,500人が走り初めを楽しみました。

中心市街地の「にぎわい創出」の一環で、大垣市商店街振興組合連合会や大垣市陸上競技協会などで組織する実行委員会(田中良幸委員長)が主催し、今年で4回目の開催となりました。

中学生の部(3km)、小学生の部(3km)、一般・高校の部(5km)、ウォーキング・ジョギ



ングの部(2km)の4部門に分かれ、午前10時から大垣城ホール前を順次スタート。参加者は白い息をはきながら、大垣駅通り、本町通りなどを回り、大垣公園前のゴールを目指しました。

沿道では、ゲストラナーの千葉真子さんや川上直子さんのほか、大勢の市民が力走する参加者を応援。完走証・完歩証を受け取った参加者らは、商店街の皆さんによって振る舞われた、うどんや白玉ぜんざいなどを味わったほか、かみいしづ温泉の足湯で体を温めて、疲れを癒やしました。

当日は天候に恵まれ、お正月の中心市街地は、心地よい汗を流した参加者や大勢の家族連れらでにぎわいました。



商店街の皆さんによる振る舞い

この記念館を大垣市民の文化のよりどころとして、また、大垣の魅力を全国へ発信する拠点として、多くの方にこ来場いただけることを期待しています。



大垣には数多くの歴史・文化・観光資源があり、その中でも大垣城と奥の細道むすびの地はシンボルとなるものです。大垣城は昨年3月に改修が完了し、週末には多くの方にこ来場いただいています。また、奥の細道むすびの地周辺は、春に桜、秋に紅葉を楽しむことができ、住吉燈台、句碑、芭蕉と木因の像が水門川沿いに並ぶ風情のある場所です。そこに、芭蕉館、先賢館、観光・交流館の3館からなる「奥の細道むすびの地記念館」を4月8日にオープンします。その中庭には、大垣藩・藩老の小原鉄心の別荘であった「無何有荘大醒樹」を復元します。

芭蕉館では、200インチの3D映像を楽しめるAVシアターのほか、紀行文「奥の細道」を「序章・旅立ち」「日光路」「奥州路」「出羽路」「北陸路」「むすびの地・大垣の旅路」ごとに解説するコーナーなどを設けます。むすびの地という大垣の特徴を生かし、「奥の細道の全体を紹介する全国でも珍しい施設になります。

また、先賢館では、幕末に活躍した郷土ゆかりの5人(江馬蘭齋、飯沼慾齋、江馬細香、梁川星巖、小原鉄心)の先人の偉業を紹介し、そして、観光・交流館では、大型ディスプレイで西美濃地域の観光情報を紹介するコーナーや、物産コーナーなどを設けます。

大垣市長 小川 敏

大垣の魅力を全国へ発信  
「奥の細道むすびの地記念館」



市長の  
なごみキーン